

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 全学で検討されているLAを有効活用する仕組みを2013年までに作る。	→LAの雇用人数。	D
2. 教員の研究時間を確保する。	→教員1人あたりの委員会数。	C
3. 理工学部と関連する倫理規定について啓発活動を行う。	→倫理講習会の開催回数。	A
4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。	→セミナーに使える教室数。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	<p>(方針)</p> <p>2009年度の2学科・1専攻の新・増設に伴い学生数の増加が生じており、それに伴い教室、セミナー室、自習・食事・休憩スペース等ならびに教育支援のための人員 (TA・RA、技術スタッフ) の確保が課題となっている。学生増に見合った数の教員が新規に採用されているが、優れた学生の確保や多様な学生の教育のために教員の教育にかかる時間は増加傾向にあり、大学院教育の活性化と密接に関連する教員の研究時間や研究費獲得に要する労力・時間の確保がますます難しくなっている。このような現状で教育研究を支援する環境や条件を整備するための方針として、現有施設・設備の整備と転用、大学院進学率の維持、向上とTA・RA・LA (ラーニング・アシスタント) の人材および財源確保、会議の簡素化、プロジェクト研究の推進の実現を図っていく。</p> <p>(現状説明)</p> <p>理工学部では従前より学生実験やコンピュータ演習等の為のスペースや設備等に関しては充実した状況にある。2009年度はV号館とVI号館が完成し、事務機能の一部とキャリアセンターならびに図書メディア館がVI号館に移転したことにより、学生サービスの向上と学生の自習スペースのさらなる確保を行うことができ、VI号館の大教室 (637人収容、279人収容) を利用することで1学年全てを対象とするガイダンス等が容易に行えるようになった。少人数のセミナーを開催できるスペースについてはIV号館の空きスペースを改修することで新たに2部屋確保することができたが、学生数の増加により実質的には前年度よりも苦しい状況に追い込まれている。厚生施設としてIV号館の空きスペースに軽食と清涼飲料水の自動販売機を中心とする休憩スペースを新設し、学生にも好評であるが、本格的な食事・休憩スペースの増設については次年度以降の課題である。防災、セキュリティ面についてはキャンパス内に非常警報装置が8台 (うち5台はAEDも設置) 新設された。学生の安全確保を目的としてVI号館の夜間出入り口には監視カメラが設けられた。IV号館内部の監視カメラの設置についても理工学部内で議論を行い、予算申請を行った。TA・RA・LAなどの教育支援要員を取り巻く状況について当該年度には大きな進展は認められていない。卒業研究を中心とする学部教育とも密接に関係する先端的研究環境の整備については、3件の文部科学省私立大学戦略研究基盤形成支援事業への採択があった。これらの事業を通してRA、博士研究員などが多く採用され、学部学生にとっても刺激となっている。外部資金、特に科研費については近年[採択率/専任教員数]の漸減が懸念されており、申請書作成のための講習会も開催されるようになったが、一足飛びの効果は表れていないのが現状である。一部の教員に過重な負担が集中する傾向は学生増などによりさらに悪化し、これらの教員の研究時間の確保は非常に困難な状況にある。</p>
☆ その他	理工学部では人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全倫理委員会があり、定期的に講習会を開催している。

## 《特定6項目データ》

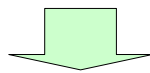
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員一人あたりの授業時間数		時間	→	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照
指標2	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	118	186	190	181	180	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、 2009、2010年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	2	2	2	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	
	その他	



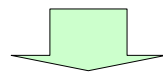
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	少人数セミナー室の確保
	その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	既存の空きスペースの改修を進める
	その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

## 【学外委員】

- 教育研究等環境の改善への取組が意欲的に進められています。
- LAの有効活用、少人数セミナー室の確保についても進展が望めます。
- 委員会の効率化により教員の研究時間が確保されることが望めます。

## 【学内委員】

- LA制度に関しては本年度下期に制度の承認がなされるスケジュールです。そのため進捗評価Dはやむを得ないと思われま。また、倫理規定に関する講習会はAとの評価ですが、小項目ごとの現状説明においてその回数を示し評価することが期待されます。
- 2009年度の施設および設備改修により、一部内容が充実したところもあるようですが、学生数の増加により、目標として挙げられているセミナーに適した教室数は十分に確保できていないようです。施設面での工夫により、できるだけ多くの教室を確保できることが望めます。
- LAの有効利用についてはまだ十分に検討されておらず、仕組みを速やかに確立する必要があります。
- 教員の研究時間の確保については、一部教員への負担の集中を避けるべく、公平は仕事の割り振りが求められます。
- 倫理規定に関する啓発活動については、適切に行われており、その点は大いに評価できます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	0.2 (その他)	人権、障がい者、倫理等に関する講習会は2009年度には1回開催した。また動物実験に関する講習会も1回開催した。
---	-----------	---

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

### <個別的な指標>
